

リンゴわい性台木JM7の大量繁殖技術の確立

福島県果樹試験場栽培部
平成11～14年試験研究成績書

1 部門名

果樹—リンゴ—採種・繁殖
分類コード 04—01—02000000

2 担当者

遠藤敦史・草野 等・宗形 隆

3 要旨

挿し木発根性を有するわい性台木品種JM7について、培土の違いによる活着（発根）性及び生育量の良否を調査し、活着率及び生育量向上による繁殖性の高い台木育苗方法を検討した。

- (1) JM7の挿し木活着率は培土の種類により差異が認められ、鹿沼土や火山灰土（独立行政法人農業技術研究機構果樹研究所リンゴ研究部圃場より導入）で高く、粘土及びロックウールで低かった。対照（マルバカイドウ）が培土の種類に影響されず高活着率を示していることと比較すると、挿し木発根性自体はマルバカイドウに劣ると考えられる。
- (2) 生育量は褐色森林土（果樹試験場内土壌）で最も高く、火山灰土がそれに続いた。活着率の高かった鹿沼土での生育量は劣った。
- (3) 以上の結果を受けて、予め鹿沼土に挿し木した後、褐色森林土に移植する試験を実施した。挿し木後移植したものは、育苗土壌に直接挿し木したものに比較して活着率が高かった。特に、挿し木後10日以降に移植した区では85%以上の活着が認められた。挿し木後60日以降の移植では生育が劣った。
- (4) 以上のことから、JM7の繁殖性を高めるためには活着率の高い鹿沼土に挿し木して発根性を確保した後、生育良好な褐色森林土（通常のリンゴ栽培に適していると思われる土壌）に移植して育苗する方法が有効と考えられる。挿し木から移植までの期間は10～40日。発根部にカルスが形成されていれば活着率が向上するため、移植に際して発根を確認する必要はないと判断される。また、生育初期の施肥により接ぎ木に適した生育量が得られる。

4 その他の資料等

なし